

紹興市の状況について

富山県大連事務所 副所長 田中 雄一

本年2月に浙江省を訪問する機会に恵まれました。うち富山県南砺市とも友好都市関係にある紹興市につき、以下簡単に紹介致します。

1. 歴史と文化の街

2500年の歴史があり、春秋戦国の越国の都であり、街並みも白壁に瓦屋根、運河といった江南特有の雰囲気があり、読者の皆様にも観光地としてもおすすめです。

浙江省は弥生時代の稲作技術やそれに関連する井戸の発祥地とも言われる他、日本の古墳から出土される三角縁神獣鏡の原型とされる鏡も紹興から多く発見されているそうです。食文化も上海より更に薄味であり、日本人にとっては馴染みやすいもの。現在の人口は435万人ですが、魯迅や周恩来といった偉人も多く輩出しています。

2. 産業と外国資本誘致

2005年の一人当たり平均GDPは約4000米ドルとされますが、地場の民営企業が牽引する形で経済発展を遂げている点で、外国資本が主体となっている大連や蘇州等とは異なっています。特に紡績業が盛んでネクタイ生産は中国内のシェア6割、全世界シェア3割。他に紹興酒等の醸造業も盛んですが、最近では機械製造やIT・医薬品といったハイテク分野も含め、産業の多様化が進んでいます。

外国企業は香港系企業が多いですが、欧米や日

本企業の進出も相応にある様子です。上海近郊への日本企業の進出相次ぐなか、紹興はやや距離的に遠い（上海から3時間）こともあり、現在の長期滞在日本人数が30数名であることが物語るように日系のプレゼンスは小。しかし、市当局や各開発区も日系企業誘致に力を注いでいます。

今回は市内からも程近く、空港や高速のアクセスも良い袍江工業区を視察しました。同工業区の土地コストは工業用地譲渡価格でUS\$15~25（1平米当たり・50年使用権）と比較的割安であり、労働コストも福利費除外で約1000元以内（ワーカー月給）と華東地区では割安。電力問題も昨年は一昨年と比べ解消の方向にあるとのこと。なお、同工業区は省級では浙江省第2の規模です。

3. 中国国内市場向け、海外向け製造拠点として最適

大規模港湾としては約130キロ東に寧波港がある他、杭州湾を跨ぐ海上大橋完成により2~3年後には上海まで2時間台の至近距離圏となります。進出済みの企業のなかには海外向け製造拠点として運営されているところもあれば、一大消費市場にも近いので国内向け製造拠点としても最適な立地条件にあります。中世以降も日本文化の源流だった紹興が今後、日系企業にとって戦略的製造拠点の最有力候補になる可能性を感じます。